

入試方式	科目	学部	学科
リーダーシップ方式	個人ワーク①	ビジネス学部	ビジネス学科

「ジャーナル」

1. リーダーシップは「ひとり」では学べない

「権限によらないリーダーシップ」には、一般的に多くの人がイメージするリーダーシップとは違い、生まれつきの才能や能力は必要ありません。あくまでも「態度」と「スキル」によって発揮されるものからです。適切な方法で練習をしていけば、誰でも身につけることができます。

となると、具体的に「どのような練習をすればいいのか」が問題になりますよね。さらに高校や大学などで実施するリーダーシップ教育のプログラムを受講するのではなく、独学で習得できるものなのだろうか、という疑問も湧くかもしれません。

答えは、残念ながら「NO」です。いくら頑張って実践を試みたところで、実は、それをひとりで行っている限り、「目標の設定・共有」「率先垂範」「同僚支援」というリーダーシップの基本三要素が不在になりがちです。これでは、リーダーシップを発揮していることにはなりません。

また、リーダーシップの定義は、「何らかの成果を生み出すために、他者に影響を与えること」です。自分ひとりで試しても、それが目標実現に向けて他者に何ら影響を与えていなければ、それはリーダーシップとはいえません。

しかも、単独で試している場合、まわりからの反応や感想、意見、評価等をもらうことがほとんどありません。従って、自分の発言や行動がまわりの人にとってどのような影響を与えているのかをたしかめることができないのです。これでは、自分がリーダーシップを発揮できているのかどうか、結局わからないままになってしまいます。

つまり、リーダーシップは、「ひとり」では学べない、のです。

2. 部活動やクラスを「練習場」として徹底活用する

普段の授業でも、リーダーシップの練習はできます。たとえば、授業でわからないところがあったら、思い切って手を挙げて質問してみる。「わかろう」という目的意識の明確化と率先垂範の行動です。これが、他のクラスメイトたちの「私も質問してみよう」という行動を引き出し、その結果、クラス全体の学びを深めていくことにつながっていけたら、そこにはリーダーシップが機能していることになります。ちょっと意識を変えるだけで、普段の授業でも十分にリーダーシップのスキルを磨いていけるのです。

いかがでしょうか。あなたの毎日の生活を見回してみると、いくらでもリーダーシップを練習する場はありそうだと思いますか。

3. 「練習」の流れを知ろう

リーダーシップの練習を具体的にどう進めていくのかを見ていきましょう。まず大きな枠組みとして、次のような流れになります。

(1) 「目標」を立てる

・そのグループが達成したい目標（成果目標）、あるいは解決したい問題を設定し、共有する

・その実現に向けて、何をすればいいのかを出し合い（「行動計画」）、「役割分担」を決める

(2) 「行動」してみる

(3) 行動したことに對して、「フィードバック」を交換する

(4) フィードバックに基づいて内省し、「改善計画」を立てる

(5) 振り返り（1）～（4）を繰り返す。

・二回目以降は、グループの状況を見て、当初決めた目標や行動計画、役割分担などについて、そのままでもいいのか見直し、必要に応じて、修正、変更していく

リーダーシップの練習においては、（1）～（4）を繰り返し行っていくことになります。つまり、目標を立て（二回目以降は見直し&修正）、行動して、フィードバックして、内省し、改善計画を立てる。このサイクルを毎回繰り返していくわけです。その中で、リーダーシップスキルを身につけていきます。PBL型のリーダーシップの授業ではこれらが最初からプログラムされています。

4. フィードバック

フィードバックとは

フィードバックとは、ある人が行った発言や行動に対して、「ここがよかった」「あそこは、こうするともっとよかったのでは」など、まわりがどう感じたのか、どう見たのかなどを伝えていくことです。それによってリーダーシップ三要素それぞれが他者から見ても発揮できている状況にもっていきます。

発するときには、「S・B・I」の三つを盛り込む

具体的なフィードバックのやり方を見ていきましょう。フィードバックをお互いの成長につなげるためには、「発し方」と「受け入れ方」それぞれである程度のスキルが必要です。そこで、まず「発し方」から見えていくことにしましょう。

相手に対してフィードバックをするときに意識してほしいのは、「S・B・I」の三つがすべてそろっていることです。「S」は「Situation（状況）」、「B」は「Behavior（行動）」、「I」は「Impact（影響）」の頭文字をとったものです。

つまり、適切なフィードバックとは、たとえば「あなた（フィードバックの相手）が、あのときに（状況）、こういう質問をしたことで（行動）、議論がこういう方向に変わった（影響）」というふうに三つの要素が盛り込まれていることが肝心だ、ということです。

たとえば、「状況（S）」がなければ、「このときの」と特定化できないので、その人の性格分類になってしまう可能性があります。そうするとフィードバックの目的からそれてしまいます。

また、リーダーシップとは行動や発言として表現されるものですから、どの「行動（B）」かを伝えることは必須です。さらに、リーダーシップとは、「他者に影響を与えること」ですから、「影響（I）」について言及しなければ、その人のリーダーシップについてフィードバックしたことにはなりません。

つまり、「S」も、「B」も「I」もそろっていなければ、適切なフィードバックには成り得ないのです。

グループワーク目的シート

発表と質問・フィードバック、ディスカッションでめざすこと（目的）は
全員がグループ内で、

- (1) 発表を時間内に終えること。
- (2) 発表者の発表内容を理解すること。
- (3) (2)について発表者を含む全員の理解がいつそう深まるように、
質問・フィードバックをすること。
- (4) ディスカッションを通じて、それぞれがリーダーシップに関する理解を深めること。
- (5) (4)について、グループメンバーが互いに協力し合うこと。

以上

2024年度 共立女子大学 総合型選抜 試験問題

No. 1

入試方式	科目	学部	学科	分野・コース
リーダーシップ方式	個人ワーク②	ビジネス学部	ビジネス学科	—
受験番号	氏名			採点

設問1 3時限のグループワークにおいて他のメンバーが行った質問やフィードバックでよいと思ったものを以下のSBIフィードバックの観点で書いてください。(3つまで) 但し、対象者(任意)欄は点数換算しません。

	対象者(任意) 例) Cさん	どのような場面で S : Situation	どのような行動が B : Behavior	グループの学びにどのような よいインパクトを与えたか I : Impact
1				
2				
3				

リーダーシップ方式の流れ

1 時限 導入・講義・資料の理解 10:00-10:20 (20分) 2号館 803教室

▶ 講義 (約10分)

・ A4白紙用紙にメモ可能

2 時限 個人ワーク① 10:20-10:40 (20分) 2号館 803教室

▶ ジャーナルを読み、講義内容を踏まえて、各自出願時に提出した小論文の内容を3時限のグループワークで、3分以内で発表できるように再構成する。

・ A3用紙、A4用紙、赤・黒マーカーは使用可能

休憩① 10:40-11:00 (20分) 教室移動含む

3 時限 グループワーク 11:00-12:00 (60分)

2号館 804・805・806・807教室 (グループ毎に分かれて実施)

▶ 2時限の個人ワークで準備した内容を用いて、個人発表、質問、フィードバックを行い、続いてディスカッションのグループワークを行う。

1. 個人発表 (3分)、グループメンバーからの質問とフィードバック (5分) 計8分/1人

2. 全員が1.を終了後、グループディスカッション9分/3人グループ(4人グループの場合は12分)

休憩② 12:00-12:20 (20分) 教室移動含む

4 時限 個人ワーク② 12:20-13:10 (50分) 2号館 803教室

▶ 3時限のグループワーク時に観察したことや気づいたことを含めて以下の2つの設問について、レポートを書く。

設問1. 3時限のグループワークにおいて他のメンバーが行った質問やフィードバックでよいと思ったものを SBIのフォーマット で書いてください。(3つまで)

S: どのような場面で (Situation)

B: どのような行動が (Behavior)

I: グループの学びにどのようなよいインパクトを与えたか (Impact)

設問2. 本日のグループワークを通じて、あなたが実践し、グループメンバーとともに体験し、観察したリーダーシップ行動について、1時限、2時限の学びを踏まえて、具体的に書いてください。難しかった点、次回行う場合の改善点も記載すること。(800字)

【3時限】グループワーク

—	受験番号	氏名
班		